

天台宗

比国で合同慰霊を
アムダ代表が要望

国連経済社会理事會から総合協議資格NGOにも認定されているアムダ(本部〓岡山市)は30力国に支部を持つ多国籍医師団。災害・紛争地に赴いて、医療支援を行ってゐる。昨年11月上旬に発生した台風30号では、甚大な被害を受けたフィリピン・レイテ島などで救援活動を展開している。

菅波茂代表は16日、一隅を照らす運動から義援金200万円を贈呈された後、記者団の囲み取材に応じた。

台風30号の被害状況

について、「かなりたくさんさんの被災者が出ていますが、大多数が貧しく医療機関にも行けない人たちです。そうした状況下で(アムダは)巡回診療をしています。(衛生環境の悪化で)傷口の化膿や風邪、感染症、下痢、高血圧が多い。小さい子どもも非常に多いので、巡回診療は重要です。医療に加え、お米・調味料など(栄養のある)食物の提供が重要です」と説明。「ほとんどの人が『日本から来た』と伝えると喜んでくれます。特にレイテ島は日本兵がたくさん死んだところです。できたらくこれを機会に毎年一回、天台宗の若い僧侶に出てもらって、現地のカトリックと合同慰霊を営んでもらい、日本兵と台風で亡くなった人々を弔っていたきたい」と要望し、「合同慰霊は台風発生日の11月8日に行うことを現地の支部との間で打ち合わせをしております、日本から誰が行くかという話になっています」と話した。

その上で、「国際社会

は宗教なしでは語れません。様々な宗教への理解がないと、心のコミュニケーションは難しい」と強調。異なる宗教間の連携が、国際社会では重要であることを示唆した。

ニュース